



# 図書通信 1月号

## 冬に読みたいラブストーリー



大切な恋人を亡くし、死んだようになって生きる女子高生が、夢の中で彼と生きた日々をなぞっていく。そうやって夢を見ていくうちに過去の現実と夢が乖離していき…。彼女が見た夢の先に待つ結末とは。切ない恋を乗り越えて主人公が前を向いて歩いていく物語。

1811 太田 芽花



子供の頃信じていたサンタクロースが本当にいたら？しかも日本に。

“誰もが誰かのサンタクロースになれる” 私はこの本を読んでそう感じました。

クリスマスの素敵なお話なので、ぜひ冬に読んでほしいです。

1713 川嶋 梨花



「この冬、君は死ぬ」限られた時間を生きる二人の、静かで切ない恋を描いた物語。雪の降る季節。当たり前の日常がどれほど尊いのかを、優しく、そして痛いほどに教えてくれます。これを読み終えたあとは、きっと誰かを大切にしたいくなるはず。

1821 志水 要



医師の真紀と、元恋人でありピアニストの克秀の二人の物語です。

自身が末期がんであることを知った真紀は、残されたわずかな時間で克秀との思い出を作ろうと決心します。そんな二人について描かれた少し切ない感動の恋愛小説です。

1708 大橋 悠翔